



—北アフリカ地域ニュース—

アルジェリア：治安情勢

(12日付エル・ワタン紙)

12日付エル・ワタン紙（現地独立系）は、アルジェリア最南端の観光地タマンラセット県の治安情勢と観光状況に関する現地特派員報告を掲載している。マリとニジェール両国に接する同県は、テロ、麻薬取引、密輸活動の深刻化に直面しており、治安機関は観光客への観光地訪問規制など厳格な警備措置を2010年2月より講じている。

1. 同県の某将校は「治安機関はタッシリ地方（タマンラセット県の観光名所）で観光客の誘拐が計画されているとの情報を得て、この計画にかかわるロジ支援者数人を逮捕した」と発言した。
2. 同県の観光業者協会は「砂漠で野営をしていた観光客グループが、突然、軍のヘリコプターで都市部に連れ戻されたり、訪問を予定していた観光地が治安上の理由で訪問禁止となったこともある。こうした措置が観光業者に事前に通知されることはない」として、予告のない観光規制が業界に与える弊害を訴えている。
3. これに対し上記将校は「マリとニジェールで起きている事件だけでも厳戒態勢を敷く十分な理由となる。多額の身代金を得て富裕化したテロリストは、観光エージェントの人員を買収して観光客の居所に関する情報を聞き出すこともできる。またテログループは、警備体制が強化されテロ支援網解体が進むと予想外の場所でテロを行うようになる」とし、タマンラセット県における観光客に対する警備措置の正当性を主張した。
4. 9月中旬のニジェール北部における仏国人5名を含む7名の誘拐の後、1週間、アルジェリアとニジェールの国境が閉鎖され、両国の国民にのみ通行が許可されている。この事件を機に軍は、観光業者の人員を監視するようになり、現地観光業界は深刻な打撃を受けている。
5. トゥアレグ族有力者の多くは「地元住民が貧困のうちに見捨てられた状況こそテロの温床であり、若者によりよき生活を送るチャンスを与えない限りテロはなくなる」としてタマンラセットに設置されたサヘル4国・対テロ共同司令部のないうる成果を疑問視している。
6. タマンラセット県では、麻薬・武器密売、密輸など治安悪化につけこんだ不正行為が盛んに行われており、街角での麻薬売買は日常茶飯事となっている。一部住民の不正による富裕化も目につき、つい最近まで貧しかった市民が豪華なヴィラを建てている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799